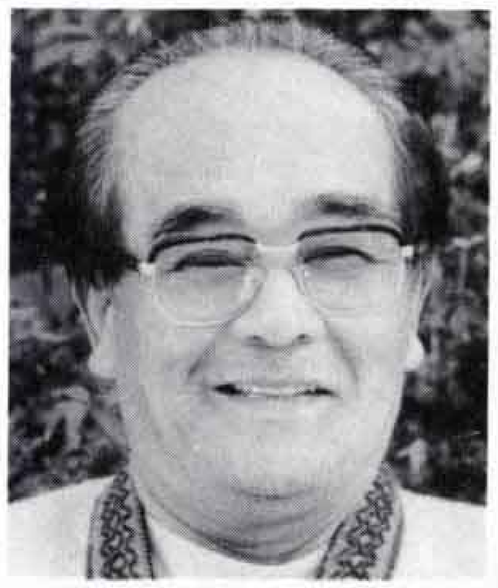
まちか

我がまちを語る



藤田良男さん
大渕2丁目(67歳)

純朴でまじめ

昔の大渕は、僻地という言葉がぴったりあてはまるところでした。

何といっても水がなく、人々は天水や沢の水などに頼って生活し大変な苦労をしました。落花生やサツマイモなどの農業、林業、養蚕が主な産業でした。

昭和三十年に吉原市となってから、水道の普及や道路拡張が行われ、徐々に生活も向上してきました。当時は、町の人に対して生活水準の遅れから劣等感を持っていたものです。

それが、自動車の普及もあってどんどん開け、現在のようになりました。

純朴でまじめ、人情味が厚いという大渕の人々の特徴は、昔の名残りと言えるでしょう。

将来は広い土地のある大渕に大学を誘致してもらい、文教地区として発展してほしいと思います。

クローズアップ人

第39回秋季高校野球東海大会で初優勝した富士高校の監督

坪内一哲(つぼうち かずのり)さん
(36歳)

野球ファンでなくても、昭和五十四年夏の富士高甲子園フィーバーは思い出されるもの。

坪内監督は、そのフィーバーの二年後から監督となり、ことしで六年目。日焼けして引き締まった顔は頼もしく、選手を追う目は厳しさを感じさせます。

監督自身、富士高野球部のOBで、選手時代は捕手で中軸を打ち、主将として活躍しました。

監督就任後は生徒に「練習をやらせるのでなく、自主的に取り組むよう」指導してきました。

また、監督の野球は、いわゆる野球ばかをつくることではありません。「野球がうまい、へたは二の次。一生懸命取り組むことを学んでほしい」という哲学があります。この辺が全員野球の秘訣かもしれません。

「今回の優勝はもちろんうれしいですが、卒業生でゲームに出れなかった生徒がグラウンドに来てくれるのが一番うれしい」という人情派でもあります。坪内監督、がんばってください。

あの人・この人・こんなこと

大渕の豆エジソン
東海林(とうかいりん) 宏君(城山)

東海林君(大渕小六年)は市の発明工夫展で、二年連続議長賞を受賞しました。作品は、夏休みの二カ月前から考えた「空き缶仕分け器」。磁石を利用して、アルミ缶とスチール缶を分けるものです。東海林君は頼もしいエジソンの卵です。

英語の実力派
岩間りさ さん(八王子本町)

「英語を覚えるのが楽しくてしょうがない」と言うのは岩間りささん(大渕中三年)。県東部の英語の暗唱大会で優勝した実力派です。「将来は語学力を生かして発展途上国に行き、人々の役に立ちたい」というのが夢です。

美容師一筋四十年
秋山あき子さん(中野一)

終戦後、大渕に初めて美容院を開業したのが秋山さん。以来四十年、大渕の人々の髪を美しくしてきました。十一月二十三日、技能功労者として表彰され、「お客さんをきれいにでき、喜こばれたときは本当にうれしいですよ。」と語ってくれました。

ジュニアバレーで優勝
稲葉清美監督(中野一)

大渕はバレーボールが盛んなことで有名です。中でも光るのがジュニアバレー。十一月に行われた県小学生選抜大会の東部大会ではすべての部門で優勝しました。子供たちを優勝に導いたのは稲葉監督。その熱心さはだれもが認め、子供たちに厚い信頼があります。